

Ⅲ がんとの共生

1 相談支援の充実¹⁰⁴

- 患者及び家族を支援するための様々な取組を一層充実させるとともに、患者及び家族がそれぞれのニーズに見合った支援にアクセスできる体制を整えることで、不安や悩みの軽減、解消を目指します。

(1) がん相談支援センター

ア がん相談支援センターへのつながりの推進

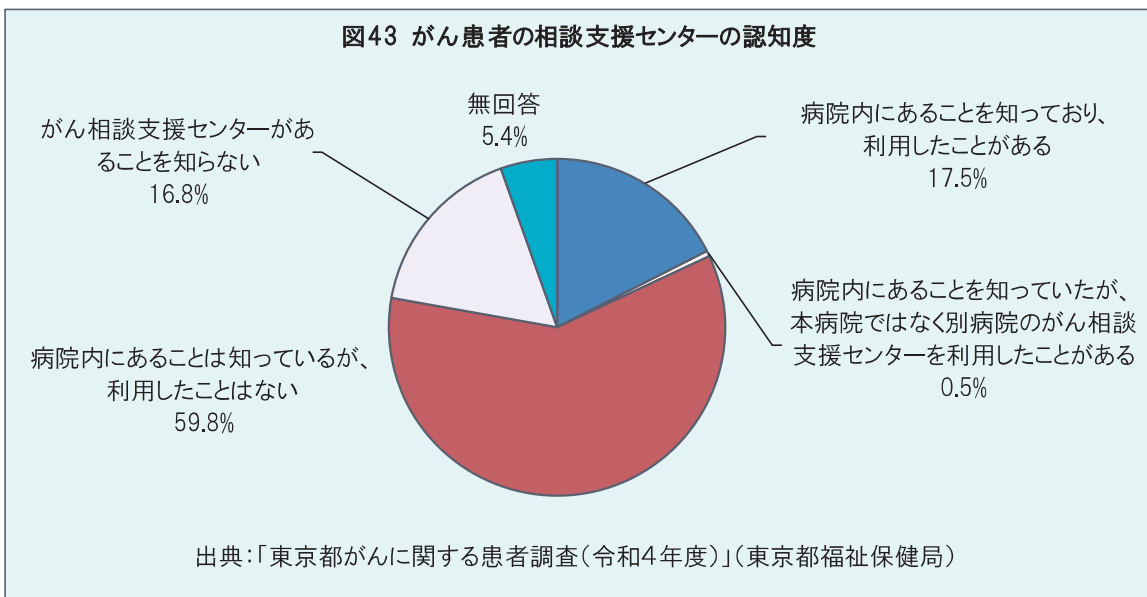
現状と課題

- がんと診断された患者及び家族は、大きな不安を抱えながら、医療機関や治療法等を選択しなければならず、また、生活や仕事に関することなど、様々な問題に直面することから、患者及び家族の不安や疑問に的確に対応し、がんに関する正しい情報を提供できる体制の整備が必要です。
- このため、国拠点病院、地域がん診療病院及び都拠点病院等は、看護師や医療ソーシャルワーカー等の相談員を配置した「がん相談支援センター」を設置し、がんの治療に関する一般的な情報（がんの病態や標準的治療法、自施設で対応可能ながん種や治療法等）の提供や、療養生活、治療や介護と仕事の両立、小児がん患者の長期フォローアップ等に関する質問や相談に対応しています。同様に、小児がんについても、小児がん拠点病院はがん相談支援センターを設置しています（表 15 参照）。
- 令和4(2022)年に改定された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」において、国拠点病院及び地域がん診療病院は「外来初診時から治療開始までを目途に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制を整備することが望ましい」とされました。
- 拠点病院等（成人・小児）や都においては、がん相談支援センターに患者及び家族をつなぐための体制づくりを推進していますが、がん相談支援センターを利用したことがあると回答した患者及び家族の割合は、成人・小児とも依然として低い状況にあります（図 43 参照）。¹⁰⁵

¹⁰⁴ 本パートにおける記載は、特記がない限り、小児から高齢者まで全ての年代のがん患者を対象とする。

¹⁰⁵ 「東京都がん患者調査(令和5年3月)」「東京都がん家族調査(令和5年3月)」「東京都小児がん患者調査(令和5年3月)」による。

図43 がん患者の相談支援センターの認知度



- また、がん相談支援センターを認知しているものの、「がん相談支援センターで相談できる内容ではないと思った」「がん相談支援センターは気軽に利用しにくい」等の理由により利用に結びつかないケースもあります¹⁰⁶。加えて、患者は主治医以外の第三者に相談を行うことをためらうケースがあるとも言われています。
- がん治療中と並び、診断時等の早期からの相談支援が必要とされていますが、東京都がん患者調査では、がん相談支援センターについて案内を受けた者のうち、がん診断時に案内があったと回答した患者の割合は 28.4%に留まっています。
- がん相談支援センターの認知度・利用状況の改善が進まない背景の1つとして、院内スタッフ間におけるがん相談支援センターの認知度の低さや意識醸成が課題として挙げられています¹⁰⁷。
また、診断時に相談支援センターの紹介を行わない理由として、医師側からは、外来診療における時間的制約に加え、「がん相談支援センターに紹介するタイミングがわからない」「院内に統一的なルールがない」という回答がそれぞれ 40%ありました。¹⁰⁸
- がん相談支援センターは、他の病院で治療を受けている患者及び家族、都民や地域の医療機関も利用可能ですが、がん相談支援センターが設置されている病院以外で治療を受けている患者の中には、がん相談支援センターの存在を知らず、支援につながるができない人もいる状況です。

¹⁰⁶ 「東京都がん患者調査(令和5年3月)」「東京都がん家族調査(令和5年3月)」「東京都小児がん患者調査(令和5年3月)」による。

¹⁰⁷ 「東京都がん医療施設等調査(令和5年3月)」による。

¹⁰⁸ 「東京都がん医療施設等調査(令和5年3月)」による。

取組の方向性

① がん相談支援センターを有する病院における体制・環境整備

- がん相談支援センターを有する病院では、外来初診時から治療開始までを目途にがん相談支援センターの存在及び場所、相談できる内容を患者及び家族に案内し、相談を希望する患者及び家族ががん相談支援センターを訪問することができる体制を整備するとともに、がん相談支援センターにおいても患者及び家族が利用しやすい環境整備に努めます。
- 「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」により求められている「自施設で提供している診療・患者支援の体制について学ぶ機会¹⁰⁹」の提供等を通じ、院内でのがん相談支援センターの認知度向上や意識醸成を進めます。

② 東京都がん診療連携協議会における支援

- 東京都がん診療連携協議会では、がん相談支援センターを有する病院における取組の好事例を共有し、各病院における取組が進むよう支援します。

③ 東京都における支援・周知

- 都は、各病院や東京都がん診療連携協議会による、がん相談支援センターの認知度向上等の推進に向けた取組を支援します。また、各病院において、外来での掲示やリーフレットの配置に加えて、診断時、一人ひとりの患者及び家族に対する説明やパンフレット配布等による周知が行われるよう、患者及び家族向けの説明資料のひな形を作成します。
- がん相談支援センターが設置されている病院以外の医療機関の患者にがん相談支援センターを周知するため、広報資材を作成し、配布します。
- 東京都がんポータルサイトやSNSによって、がん相談支援センターの存在や相談できる内容、都内における設置場所について、効果的な情報提供を推進していきます。

イ がん相談支援センターの質の向上

現状と課題

- 成人のがんについては、東京都がん診療連携協議会において、AYA世代がんを含む相談支援の知識・技能向上を目的に、相談員向けの研修や勉強会を開催しています。また、各相談支援センターにおけるPDCAサイクルの取組等により、機能向上を図っています。
- 小児・AYA世代のがんについては、相談件数自体が少なく、また、AYA世代

¹⁰⁹ 「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」II 4(6)による。

の中でもA世代とYA世代で必要とする支援の内容が異なることから、各病院の相談支援センターにノウハウが蓄積されにくいことが指摘されています。このため、東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会にて、相談員の知識・技能向上のための研修を開催するとともに、小児がん患者への相談に係るリーフレットの作成、配布等を通じた相談の質の均てん化を図っています。

また、AYA世代については、令和3(2021)年に都が開設したAYA世代がん相談情報センター¹¹⁰が開催する勉強会等により、相談員のスキルアップを図っています。

- 東京都がん患者調査では、がん相談支援センターの利用者において「今後も利用したい」という回答が61%を占めています。
- がん相談支援センターに求められる業務が多様化かつ複雑化していることから、患者及び家族の不安を取り除くためには、引き続き、相談員のスキル向上や質の担保が必要です。

取組の方向性

① 相談員の更なるスキル向上の推進

- 患者の年代を問わず、質の高い相談支援を受けることができる環境を整えるため、東京都がん診療連携協議会及び東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会において、引き続き、相談員向けの研修を実施していきます。
- 都は、相談員に対し、引き続き、国立がん研究センターが開催する研修会への参画を促進していきます。
- 小児がん患者に対する相談支援の充実のため、東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会において、引き続き取組を推進します。
- 都は、AYA世代のがん患者に対する相談支援体制の充実に向けて、AYA世代がん相談情報センターにおける情報集約及び各病院のがん相談支援センターへのノウハウの共有を推進します。

ウ 多様な相談ニーズへの対応

現状と課題

- 都は、昼間に相談時間を確保できない患者及び家族の相談ニーズに対応するため、休日・夜間対応のがん相談支援センターの運営を支援しています。

¹¹⁰ 「AYA世代がん相談情報センター」: AYA世代のがん患者の相談支援、がん患者同士の交流イベントの開催を行うほか、都内医療機関の相談員同士の交流機会の確保、相談支援を通じたノウハウ蓄積と都内医療機関への共有等により支援の充実を図る機関。聖路加国際病院及び東京都立小児総合医療センターの2か所に設置

- また、就労等の多様な相談ニーズに対応するため、各がん相談支援センターでは、社会保険労務士やハローワーク（公共職業安定所）と連携した相談支援等を実施しています。
- AYA世代がん患者がライフイベント等に関係して抱える様々な悩みに対応できるように、都は令和3（2021）年にAYA世代がん相談情報センターを都内2か所に開設し、他のがん相談支援センターでは対応が困難な案件への対応や、他のがん相談支援センターへの助言等を行っています。
- 日本語を母国語としない人、LGBTQの患者など、様々な背景を有する患者及び家族にも適切に対応する必要があります。
- 相談の手段として、患者にとって利用しやすい方法を尋ねたところ、対面（74.0%）が最も多い一方、電話（34.5%）、メール（18.2%）、オンライン形式の面談（12.7%）にも一定のニーズが存在することが分かりました。
- 第4期基本計画において、オンライン技術を活用した相談支援体制の整備が示されていますが、拠点病院等（成人・小児）においては必ずしも実施体制が整っていない状況があり、その背景にはインターネット環境や情報セキュリティ上の課題が挙げられています¹¹¹。

取組の方向性

① 相談体制の継続・広報

- 患者及び家族が望む時間に、望む方法で、多様な悩みを相談することができる環境を整えるため、都は、休日・夜間に相談支援を実施する病院への補助を継続するとともに、治療と仕事の両立、生殖機能温存、AYA世代のがん患者に特有の課題等の多様な相談ニーズや、日本語を母国語としない人、LGBTQの患者等、様々な背景を有する患者及び家族に対応できる体制を維持していきます。加えて、これらの相談窓口について周知・広報を強化するとともに、各相談窓口の多言語対応状況についても案内を行います。

② オンラインでの相談環境の整備

- 都は、オンラインでの相談環境を整え、アクセシビリティの向上を図るため、各がん相談支援センターにおける設備整備を支援していきます。

¹¹¹ 「東京都がん医療施設等調査（令和5年3月）」による。

表 15 国拠点病院・地域がん診療病院・都拠点病院・小児がん拠点病院
がん相談支援センター 一覧（令和5年12月1日現在）¹¹²

■国拠点病院・地域がん診療病院

医療機関名	がん相談支援センターの名称	対応時間
国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	がん相談支援センター	月～金 8時30分～17時15分
地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立駒込病院	患者・地域サポートセンター （がん相談支援センター）	月～金 9時～17時
公益財団法人がん研究会 有明病院	がん相談支援センター	月～金 10時～16時30分
東京慈恵会医科大学附属病院	がん相談支援センター	月～金 10時～12時 / 13時～16時 土 9時～12時
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	がん相談窓口 （がん相談支援センター）	月～金 9時～16時
順天堂大学医学部附属 順天堂医院	がん治療センター （患者相談室/がん相談支援センター）	月～金 9時～16時 土 9時～12時（第2除く）
東京大学医学部附属病院	がん相談支援センター	月～金 10時～12時 / 13時～16時
東京医科歯科大学病院	がん相談支援センター	月～金 9時～16時30分
日本医科大学付属病院	患者支援センター	月～金 9時～17時 土 9時～16時 日 8時30分～17時（第2・4）
聖路加国際病院	相談・支援センター （がん相談支援室/ AYA サバイバーシップセンター）	月～金 9時～16時30分
地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立墨東病院	がん相談支援センター	月～金 9時～17時
NTT東日本関東病院	患者サポートセンター ・がん相談支援センター	月～金 9時～17時
昭和大学病院	総合相談センター（がん相談支援センター）	月～金 9時～17時
東邦大学医療センター 大森病院	がん相談支援センター	月～金 10時～16時 （受付 9時～16時30分） 夜間電話がん相談 水 17時～21時
独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	相談支援センター	月～金 9時～17時

¹¹² 最新の情報は、東京都がんポータルサイトに掲載
（https://www.hokeniryoo.metro.tokyo.lg.jp/iryoo/iryoo_hoken/gan_portal/soudan/center.html）

医療機関名	がん相談支援センターの名称	対応時間
日本赤十字社医療センター	がん相談支援センター (患者支援センター内)	月～金 9時～16時30分
慶應義塾大学病院	がん相談支援センター	月～金 9時～17時 (受付 9時～16時)
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院	がん相談支援センター (総合医療相談カウンター内)	月～金 8時30分～16時30分
東京医科大学病院	総合相談・支援センター(がん相談窓口)	月～金 9時～16時
帝京大学医学部附属病院	がん相談支援室 (がん相談支援センター)	月～金 9時～16時 夜間がん電話相談窓口 月・金 17時～21時
日本大学医学部附属板橋病院	がん相談支援センター	月～金 8時30分～16時30分
市立青梅総合医療センター	がん相談支援センター	月～金 9時～17時
東京医科大学 八王子医療センター	総合相談・支援センター がん相談支援室	月～金 9時～16時
東海大学医学部付属 八王子病院	患者支援センター (がん相談支援センター)	月～金 10時～16時 土 10時～14時(第2・4・5)
独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	がん相談支援センター	月～金 9時～17時
武蔵野赤十字病院	がん相談支援センター	月～金 9時～17時
杏林大学医学部附属病院	がん相談支援センター	月～金 9時～16時
地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立多摩総合医療センター	がん相談支援センター	月～金 9時～16時
公立昭和病院	がん相談支援センター	月～金 9時～16時
東京女子医科大学附属 足立医療センター	がん患者相談室 (がん相談支援センター)	月～金 9時30分～16時 土 9時30分～11時(第3除く)

■都拠点病院

医療機関名	がん相談支援センターの名称	対応時間
社会福祉法人三井記念病院	がん相談支援センター	月～金 9時～16時
東京通信病院	がん相談支援センター	月～金 9時～12時 13時～16時30分
国際医療福祉大学三田病院	医療相談・緩和ケアセンター がん相談支援センター	月～金 9時～17時

医療機関名	がん相談支援センターの名称	対応時間
東京都済生会中央病院	がん診療統括センター がん医療相談室	月～金 9時～16時30分 土 9時～12時 (第2・4・5除く)
公立学校共済組合関東中央病院	がん相談支援センター	月～金 9時～16時
順天堂大学医学部附属 練馬病院	がん治療連携室・患者相談室	月～金 9時～16時 (受付 9時～15時)
日本医科大学多摩永山病院	相談支援センター	月～金 9時～17時 土 9時～16時
国家公務員共済組合連合会 立川病院	がん相談支援センター	月～金 9時～16時
東京慈恵会医科大学附属第三病院	がん相談支援センター	月～土 9時～16時

■協力病院（がん相談支援センターを有する病院のみ掲載）

医療機関名	がん相談支援センターの名称	対応時間
社会福祉法人仁生社江戸川病院	がん相談支援室	月～金 8時40分～17時 土 8時40分～12時
日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院	がん相談支援センター	月～金 9時～16時
独立行政法人労働者健康安全機構 東京労災病院	がん相談支援センター	月～金 8時15分～17時
東邦大学医療センター大橋病院	がん相談支援センター	月～金 10時～16時
独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター	がん相談支援センター	月～金 9時～16時
東京都健康長寿医療センター	がん相談支援センター	月～金 9時～17時
東京西徳洲会病院	がん相談支援センター	月～金 9時～17時 土 9時～12時
社会医療法人財団大和会 東大和病院	がん相談支援センター	月～土 9時～17時
公益財団法人結核予防会 複十字病院	がん相談支援センター	月～金 8時30分～17時 (外来診療のある平日) 土 8時30分～12時 (外来診療のある土曜日)
独立行政法人国立病院機構 東京病院	がん相談支援センター	月～金 9時～16時

■小児がん拠点病院

医療機関名	がん相談支援センターの名称	対応時間
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター	小児がん相談支援センター	月～金 8時30分～17時
地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター	子どもがん相談支援センター	月～金 10時～16時

※ 東京都小児がん診療病院はいずれも国拠点病院の指定も受けており、がん相談支援センターの名称等は「■国拠点病院・地域がん診療病院」の表参照



AYA世代のみなさんの悩みごとに向き合う

AYA世代は、進学や就職、恋愛、結婚、子供の誕生など、夢と希望に満ちた年代と言われています。一方で、その都度、人生の岐路を迎えることとなり判断に悩むことも多くあります。そのような時期にがんに罹患してしまうということは、未来を考える上で大きな影響を与えることになります。

がんは高齢者に多い疾患であり、AYA世代のみなさんは自分が「がんになる」という実感はないかもしれません。確かに多くはありませんが、都内で1年間のうち新たにがんに罹患する人の中で、AYA世代の方は、おおよそ3%となっています。

都では、AYA世代のがん患者のみなさんの悩みごとに関わり、解決の一助となるべく「AYA世代がん相談情報センター」を設置しています。同センターでは、以下のような取組を行っています。

■相談支援・情報提供

例えば、学業や仕事、結婚、生殖機能のこと、子供への関わり方、経済的な問題など様々な相談を受けるとともに、適切な窓口等を紹介しています。

■AYAキャンサーサバイバーズミーティング

AYA世代のがん患者は少ないため、同じ境遇の仲間に出会うことや経験者の話を聞く機会があまりないと言われていることから、AYA世代のがん患者同士が交流できるイベントを開催しています。

■Tokyo AYA Canネットワーク

がん診療連携拠点病院等の相談員同士がそれぞれの相談を受けた経験を共有することで、相談支援の充実を図っています。

<設置場所> ※いずれも、土曜、日曜、祝日を除く午前9時から午後5時まで

- 聖路加国際病院（中央区明石町9番1号）

問合せ先：03-5550-7098

- 東京都立小児総合医療センター（府中市武蔵台二丁目8番29号）

問合せ先：042-312-8191

また、「がん相談支援センター」においても相談支援に取り組んでいます。悩みごとや困りごとがあれば相談してみてください。

(2) 患者団体・患者支援団体

現状と課題

○ 都内では、がん経験者等が集まり、お互いの不安や悩みを共有したり、がん患者及びその家族の相談支援等を行うなど、患者団体¹¹³及び患者支援団体¹¹⁴(以下「患者団体等」という。)が活動しています。拠点病院等(成人・小児)は患者団体等と連携して、患者及び家族が集える場を設置したり、患者団体等の活動情報の提供などを行っています。

また、都は、患者団体等の情報を収集し、発信しています。

○ 都は、東京都がんポータルサイトにおいて患者団体等の情報を掲載するとともに、掲載団体の拡充にも努めています。

取組の方向性

① 情報掲載・発信の強化

○ 患者及び家族が自身のニーズに合致する団体につながるができる環境を整えるため、都は、引き続き、東京都がんポータルサイトにおいて患者団体等の情報掲載を推進し、患者及び家族や拠点病院等(成人・小児)に対して発信していきます。併せて、患者団体等によるイベント開催情報等の掲載も推進します。

(3) ピア・サポート及び患者サロン

現状と課題

○ ピア・サポートとは、がん患者や家族の悩みに対して、がん経験者等が、同じ経験を持つ仲間(ピア)として自分の経験を生かしながら相談や支援を行う取組のことで、これを行う人をピア・サポーターといいます。

○ 都は、国拠点病院、地域がん診療病院及び都拠点病院におけるピア・サポートの取組を支援しており、令和5年8月時点で、これらの病院の約半数においてピア・サポーターと連携した患者サロン等の開催や、ピア・サポーターによる個別相談会を実施しています。

○ しかし、ピア・サポーターの接し方によっては、患者や家族を傷つけてしまうこともあるため、各病院によるピア・サポート推進に向けて、ピア・サポーターの質の担保が求められています。

○ また、がん経験者の中には、ピア・サポーターとして活動することを希望しているものの、活動の機会を持つことができない人もいます。

¹¹³ 「患者団体」:本計画では、患者及び家族、何らかの共通する患者体験を持つ人たちが集まり、お互いの悩みや不安の共有、情報交換及び交流など当事者間で自主的に活動する団体を「患者団体」と指す。

¹¹⁴ 「患者支援団体」:本計画では、患者及び家族を支援することを目的として患者及び家族以外の第三者が主体となって活動する団体を「患者支援団体」と指す。

- AYA世代のがん患者の一定数は、経験するライフイベント等に応じたピア・サポートを必要としていますが、がん種や社会状況に応じて多様性が高く、自分と同じ条件のピア・サポーターを探すことが難しい場合があります。
- 患者サロンは、がん患者や家族など、同じ立場の人が自由に集いがんについて気軽に語り合える交流の場です。国拠点病院・地域がん診療病院・都拠点病院や一部の区市町村等で設置しており、がん相談支援センターや患者団体等、患者や家族など様々な運営主体が、交流会や勉強会等を開催しています。
- しかし、新型コロナの感染拡大を受けて、患者サロンの活動が中断し、患者や家族が同じ立場の人と交流できる場が以前より少なくなっています。
- 都では、ピア・サポート及び患者サロンについて、東京都がんポータルサイトで案内していますが、ピア・サポート及び患者サロンとも、参加・利用者が限られています。参加・利用の希望を有するものの、実際に参加・利用したことがないと回答した人にその理由を尋ねたところ、「参加方法が分からない」「どこで実施されているか分からない」との意見が多数を占めていました。¹¹⁵

取組の方向性

① ピア・サポーターの提供推進

- 都においてピア・サポーターの養成研修に取り組み、研修を修了したピア・サポーターの情報を分かりやすい形で拠点病院等（成人・小児）に対して情報提供することにより、質の担保と活動機会の提供の実現を図ります。

② 患者サロンの開催支援

- 国拠点病院・地域がん診療病院・都拠点病院における患者サロンの開催を推進するために、都は、東京都がん診療連携協議会と連携し、好事例の共有等を行うとともに、必要な環境整備を支援します。

③ 開催情報の発信強化

- ピア・サポート及び患者サロンの開催情報を東京都がんポータルサイトで分かりやすく発信するとともに、拠点病院等（成人・小児）と連携し、がん相談情報センターによる案内も推進します。

¹¹⁵ 「東京都がん患者調査(令和5年3月)」「東京都がん家族調査(令和5年3月)」「東京都小児がん患者調査(令和5年3月)」による。

【指 標】

分野別アウトカム指標			
指標	現行値	目標値	出典
精神心理的苦痛を抱えるがん患者の割合 ¹¹⁶	36.8% (平成 30 年度)	減らす	国立がん研究センター 患者体験調査 (都道府県別集計)
中間アウトカム指標			
指標	現行値	目標値	出典
病状や療養に関することについて、家族、がん相談支援センター、医療者、ピア・サポーター、患者団体等、誰かに「相談できた」と回答した患者の割合	61.0% (令和 4 年度)	増やす	東京都 がん患者調査
がん相談支援センターが病院内にあることを知っている患者の割合	77.8% (令和 4 年度)	増やす	東京都 がん患者調査
がん相談支援センターを利用したことがあり、「今後も利用したい」と回答した患者の割合	61.0% (令和 4 年度)	増やす	東京都 がん患者調査
休日及び夜間における相談件数	休日：15 件 夜間：91 件 (令和 4 年度)	増やす	機能強化事業 実績報告書
オンラインでの相談支援について「実施している（患者へ周知・広報している）」と回答した拠点病院等（成人・小児）の割合	9.6% (令和 4 年度)	増やす	東京都がん 医療施設等調査
患者団体等が開催するイベントについて「参加したいと思っているが、参加したことはない」「存在を知らなかった」と回答した患者の割合	— (基準値なし)	減らす	東京都 がん患者調査
ピア・サポートについて「受けたいと思っているが、受けたいことはない」「存在を知らない」と回答した患者の割合	受けたいと思っているが、 受けたいことはない 14.8% 存在を知らない 45.1% (令和 4 年度)	減らす	東京都 がん患者調査
患者サロンについて「参加したいと思っているが、参加したことはない」「存在を知らなかった」と回答した患者の割合	参加したいと思っているが、 参加したことはない 15.3% 存在を知らない 34.4% (令和 4 年度)	減らす	東京都 がん患者調査

¹¹⁶ 「がんやがん治療に伴い、気持ちがつらいですか」の問に対して「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した患者の割合を 100 から引いたもの。

2 情報提供の充実¹¹⁷

- 患者及び家族にとって必要・有益となる情報を、適時、的確に発信することで、患者及び家族が適切かつ十分な情報を得ることを可能とし、治療・療養生活の質の向上を図ります。

(1) 情報提供の充実・強化

現状と課題

- 都では、がん患者及びその家族の医療機関の選択や療養上の悩みの解決、がんに対する理解の促進に役立つよう、がんに関する各種の情報を集約し、東京都がんポータルサイトにおいて一元的に提供しています。
- また、がん相談支援センターの機能の紹介や、がんの治療と仕事の両立に係る企業向け研修用動画等、都民や企業等に向けた動画等の普及啓発資材を作成し、展開しています。
- しかしながら、がん相談支援センターの存在、がんと診断された時から緩和ケアを受けることができるということ等、東京都がんポータルサイトを通じて周知を図ってきた事項について、依然として都民の認知度に課題が存在します。
- また、作成した動画資材等も、より十分な周知と効果的な活用が必要です。

取組の方向性

① 東京都がんポータルサイトの周知

- 都は、東京都がんポータルサイトの認知度向上のため、都が作成する患者向け資材への二次元バーコード掲載、SNS等を利用した広告等に取り組みます。また、拠点病院等（成人・小児）、患者団体等、国、区市町村との相互リンクや医療従事者への情報提供によるサイトの周知に努めます。

② 情報発信の見直し

- 都は、東京都がんポータルサイトにおける効果的な情報発信と利便性の向上のため、伝えたいメッセージとターゲットを明確化し、患者及び家族向けの情報を、がんと診断されてから患者が経験する過程に沿った形で発信していきます。
- 情報発信に当たっては、都民や企業向けに作成した普及啓発資材等を効果的に

¹¹⁷ 本パートにおける記載は、特記がない限り、小児から高齢者まで全ての年代のがん患者を対象とする。

活用するとともに、積極的にPRしていきます。

(2) 東京都がん診療連携協議会及び小児がん拠点病院との連携

現状と課題

- 令和4(2022)年に改定された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」において、都道府県協議会には、都道府県内の医療機関間における役割分担や、都道府県内の拠点病院等(成人)の院内がん登録のデータやがん診療、緩和ケア、相談支援等の実績の公表、がん医療や相談支援に関する窓口・機関等¹¹⁸へのアクセスに関する広報等が求められています。
- 小児がんについては、「小児がん拠点病院等の整備に関する指針」において、小児がん拠点病院に「自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び診療従事者の専門とする分野・経歴」に関する情報提供が求められています。
- 都民にとって分かりやすい情報発信のためには、都、東京都がん診療連携協議会及び小児がん拠点病院の3者の間での連携が必要です。

取組の方向性

① 関係者間で連携した情報発信

- 都は、東京都がん診療連携協議会及び小児がん拠点病院と連携して都内のがん医療や相談支援に関する窓口・機関等の実績及びアクセスに係る情報等を集約し、効果的に案内していきます。

(3) 科学的根拠に乏しい情報への対応

現状と課題

- 東京都がん患者調査によれば、6割以上の患者がインターネットを用いて情報収集を行うなど、インターネットは最も広く利用されている情報収集手段となっています。
- 一方、がんに関する情報があふれる中で、インターネットを含め、科学的根拠に乏しい情報が多く存在している状況です。国はこうした情報について注意喚起を行うとしています。

取組の方向性

① 科学的根拠に乏しい情報への注意喚起

- 都は、科学的根拠に乏しい情報が多く存在していることについて、東京都がんポ

¹¹⁸ 診療、緩和ケア外来、がん相談支援センター、セカンドオピニオン、患者サロン、患者団体・患者支援団体、在宅医療等

ータルサイトやSNS、患者及び家族向けの普及啓発資材等を活用し、注意喚起を行うとともに、「医療機関ネットパトロール¹¹⁹」の利用について情報提供します。

(4) 様々な背景を有する人への情報提供

現状と課題

- 都内における外国人の人口は令和5（2023）年4月時点で約59万人であり、都内の総人口の約4.2%を占めています。日本語を母国語としない都民へも適切に情報を提供することが必要です。
- 東京都がんポータルサイトでは、多言語対応での情報発信を行っています。しかし、日本語を母国語としていない人に対して必ずしも行き届いておらず、利用可能な支援等の情報を患者及び家族が十分に得ることができていない場合もあります。
- 国においては、障がい等により情報取得や意思疎通に配慮が必要なケースについて、医療へのアクセスを確保するために現状及び課題等を把握し、情報提供体制の在り方について検討するとしています。都においては、東京都手話通訳条例等に基づき、必要な配慮を講じています。

取組の方向性

① 様々な背景を有する人への適切な配慮の推進

- 都は、今後、都で作成する主要な啓発資材について、多言語対応やコミュニケーションに障がいをもつ都民への配慮を図ります。また、各がん相談支援センターの多言語対応状況や障がいをもつ方への対応状況を確認し、東京都がんポータルサイトで発信するとともに、各がん相談支援センターにも他の相談支援センターの対応状況について情報提供を行います。

【指 標】

分野別アウトカム指標			
指標	現行値	目標値	出典
必要な情報を十分に得られていると感じる患者（小児がんにおいては保護者）の割合	— (基準値なし)	増やす	東京都がん患者調査 東京都小児がん患者調査
中間アウトカム指標			
指標	現行値	目標値	出典
東京都がんポータルサイトについて「見たことがある」と回答した患者の割合	3.9% (令和4年度)	増やす	東京都がん患者調査

¹¹⁹ 医薬等に係るウェブサイトの監視体制強化事業（厚生労働省委託事業）

東京都がんポータルサイトについて、医療機関の選択や療養上の悩みの解決、がんに対する理解の促進に「役立った」と回答した患者の割合	— (基準値なし)	増やす	東京都 がん患者調査
がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	— (基準値なし)	増やす	都民意識調査

第4章

Ⅲ

分野別施策(がんとの共生)



がんに関する情報は東京都のウェブサイトをご覧ください！

東京都では、がんに関して3つのウェブサイトを設けています。

1 東京都がんポータルサイト

がん患者及び家族の医療機関の選択や、療養上の悩みの解決に役立つよう、がんに関する各種の情報を集約し、わかりやすく紹介しています。

主な掲載内容

- ①がんについて知る・調べる
- ②病院を探す
- ③がんと向き合う・相談する
- ④治療・療養に役立つ情報
- ⑤医療従事者向けの情報
- ⑥がんを予防する・検診を受ける



2 とうきょう健康ステーション

がん予防・がん検診に関する情報を含む、生活習慣病の発症・重症化予防や、生活習慣の改善に関する情報を紹介しています。

主な掲載内容

- がん予防・がん検診に関するコンテンツ
- ・「がん」という病気と検診について
 - ・がん検診を受けられる場所
 - ・東京都の取組について



3 TOKYO#女子けんこう部

女性特有の病気や健康に過ごすために知っておきたいことについて、人気マンガ家・ミツコさんのマンガで手軽に読めるポータルサイトです。

主な掲載内容

- ・子宮頸がん
- ・乳がん
- ・大腸がん
- ・お酒
- ・食生活
- ・こころの健康
- ・喫煙
- ・その他の健康関連情報

